

北  
海  
道  
開  
拓  
使  
團  
三  
部  
印  
信  
號  
章



四月  
七日

東京市日本橋區西河岸町六番地

島平  
旅館  
平野平四郎

電話本局  
特長  
長一三八一  
番



十 じつと翁の筆

お復は幸りつゝも氣せぬ

御川やか候るお男

お父男むちかひ子

井山伊勢第

ゆのわ生

幸りの乞食も稍異

體的、正直の申ゆぢ

あく乞食て桂室

の名こよみ

幸りお寄りの様致

少金五十石ある事

御川伊勢の若起

様合計一石三十九石

徳一もお父の件

退院せま宣のふ呂

改  
株会社一  
件  
はう一  
事務員の件  
御承仕あ宜の事  
十  
占と決定區部附  
そくぐく空の会  
会議せきぎ行  
度人間め仰  
附し一括納る  
取扱のゆれあふ  
それらの点に生  
事務は決定と見  
内改是御うかん  
御承候の事務局  
主として利利八  
タ判四一四印

伊豆の山縣守

強烈の山縣守

強烈の山縣守

夕刊 四一四印

朝日新聞全号義

りりすとお城

候ちたれん乞え候了

ほり旅行お出

古めをくじんびゆ

しはなにうゆるす

半身の神お出

かひらかしゆ

勤王行内伊富

門主はせき午夜七時

今分古

時事も

八月十七日

時事

乙未

ほり旅行の故  
古りを以て御  
も流乞う御了の  
御事の神 大國  
御多幸也 せせら  
勤王訪内伊富  
門を以て午後七時  
事